

接続期の教育の充実に向けて2



～スタートカリキュラムの作成から実践へ～

小学校においては、「学習指導要領 第1章総則第2の4 学校段階等間の接続」において、スタートカリキュラムの作成が規定されました。スタートカリキュラムを作成することにより、幼児期に育まれてきた力を発揮できるように指導や時間や活動を幼児教育に倣いながら工夫し、45分授業のやり方に次第に導いていきます。特に、幼稚園教育要領等に示された「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を發揮できる場面を用意し、それぞれの児童の力を見定めつつ、徐々に小学校の授業のやり方に向けていくことが大切です。また、低学年全体で幼児期に育った資質・能力を伸ばす視点から、幼児期の終わりまでに育った姿の發揮を教科指導の始めに組み込みつつ、主体的に学びに向かうようにしていくことが大切です。



「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を共有する

「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」は、幼児教育の出口に当たるところにおける幼児の具体的な姿を示しています。同時に、それは、小学校の入り口における子供の姿でもあります。つまり、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」は、幼稚園等と小学校の教師双方が指導の際に考慮するものであり、円滑な接続のためには、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を、双方の教師が共有することが重要です。そのため、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」をより効果的に生かすためには、合同の研究会や研修会で意見交換を行ったり、事例を持ち寄って話し合ったりすることが、これまで以上に重要になってきます。小学校は、幼児期の教育で培った力を受けて、それを更に伸ばし、小学校の教科等の教育の質を上げ、子供の資質・能力を高めていくことが求められます。

幼 児 期

幼稚園においては、幼稚園教育が、小学校以降の生活や学習の基盤の育成につながることに配慮し、幼児期にふさわしい生活を通して、創造的な思考や主体的な生活態度の基礎を培うようにするものとする。

(幼稚園教育要領より抜粋)

幼児期の終わりまでに育ってほしい姿

健康な心と体
自立心
協同性
道徳性・規範意識の芽生え
社会生活との関わり
思考力の芽生え
自然との関わり・生命尊重
数量や図形、標識や文字などへの関心・感覚
言葉による伝え合い
豊かな感性と表現

児 童 期

特に、小学校入学当初においては、幼児期における遊びを通じた総合的な学びから他教科等における学習に円滑に移行し、主体的に自己を發揮しながら、より自覚的な学びに向かうことが可能となるようにすること。

(小学校学習指導要領より抜粋)

保育参観や授業参観、合同の研究会や研修会を通して、幼稚園等の教員と小学校の教員が「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を共有し、教育課程をつなぐことが大切です。

【幼児期の終わりまでに育ってほしい姿と幼小接続期の指導】

各教科等における幼児教育とのつながり

生活科においては、これまで以上に、幼児期の教育とのつながりを強化し、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」から「自覚的な学び」へと発展させていくことが求められています（小学校学習指導要領第2章各教科 第5節生活 第3の1の(4)）。国語科，算数科，音楽科，図画工作科，体育科，特別活動においては、下記のような共通の規定により、幼児教育との関連と生活科との合科的・関連的指導を進めることが述べられています。個別の教科等の導入の際、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を基底に置いて指導を進めることが大切です。

【小学校学習指導要領 第2章 各教科 第3 指導計画の作成と内容の取扱い】

低学年においては、第1章総則の第2の4の(1)を踏まえ、他教科等との関連を積極的に図り指導の効果を高めるようにするとともに、幼稚園教育要領等に示す幼児期の終わりまでに育ってほしい姿との関連を考慮すること。特に、小学校入学当初においては、生活科を中心とした合科的・関連的な指導や、弾力的な時間割の設定を行うなどの工夫をすること。

生活科を中心とする合科的な指導

生活科を中心とした合科的な指導とは、学習のねらいとして抽象度の高い「方向目標」を定め、その目標を達成するために、遊び的要素の強い活動や教科にも連動するような活動を取り入れ、子供の登校意欲や学習意欲を高める指導のことです。

(例) 単元名「がっこう だいすき」

目 標	学校が大好きになり、明日も学校に行きたいと思える子供を育てる。
学習活動	学校探検（生活）、自己紹介（国語）、友だち何人？（算数）、校歌を歌おう（音楽）、自画像で自己紹介（図画工作）などを取り入れ、様々な教科学習に結び付く活動を遊びながら展開していく。

スタートカリキュラムは、「育てたい子供像＝活動を中心とした学習全体のねらい」が先にある合科的指導が相応しく、特に重要な要素です。生活科のもつ教科目標の抽象度の高さ（「自立し生活を豊かにする」）と学習の自由度の大きさ（学習の大枠は教師が決めるが具体的な学習内容は子供が決める）が、スタートカリキュラムをより効果的にします。

生活科を中心とする関連的な指導

生活科を中心とした関連的な指導とは、教科等別に指導するに当たって、各教科等の指導内容の関連を検討し、指導の時期や指導の方法などについて相互の関連を考慮する指導のことです。



(例) 生活科「がっこうたんけん」の学習成果を他教科等の学習に生かす

国 語	学校探検で見付けた「すごいな」、「ふしぎだな」、「やってみたいな」などを「話す・書く」活動に生かしたり、名刺を書く必要性から文字指導につなげたりする。
算 数	学校探検で見付けた人や物を数字や形で表したり、グループの人数を分けたりする活動を「かず」、「かたち」、「なんばんめ」などの学習につなげる など
音 楽	学校探検で見付けた音楽室の楽器を使ってリズム遊びを楽しんだり、上級生の歌声への憧れから校歌の練習につなげたりする など

図画工作	学校探検における豊かな体験を、「感じたことから表したいことを見つけて表す」活動につなげる など
体育	校庭で遊んだ楽しかった経験から、「体ほぐしの運動」やもっとたくさんの遊具にチャレンジする活動につなげる など
道徳	学校探検の経験から、「廊下は静かに歩く」、「時間を守る」などのきまりを守ることの大切さを話し合う など
特別活動	学校探検で訪ねた保健室で健康診断があることを知り、健康についての関心を高めたり、探検で通った経路を確認し、避難訓練につなげたりする など

スタートカリキュラムで配慮したいこと

- 幼児期の終わりまでに育ってほしい姿を發揮できる環境構成や指導の工夫
(例) 遊び中心の生活リズムから固定時間割に基づく生活へと徐々に移行していく。
- 子供と相談しながら進める適応指導・学習規律指導の工夫
(例) 机上に出す物、話の聞き方の約束など、子供と相談し、納得づくで進めていく。
- 教科への芽生えを引き出す生活科の活動等の工夫
(例) 数への関心・感覚の活動を生活科や算数で行い、計算へと徐々に導入する。
- 一人一人に応じた指導の工夫
(例) 活動の順序やロッカーの使い方など可視化し、安心して学習できる環境を作る。

現在の教育課程の見直しによる作成

スタートカリキュラムは、各学校にある教育課程を、幼児教育の成果を生かし子供の学びや育ちをつなぐカリキュラムとして、「スタートカリキュラム スタートブック」で示された三つの視点で見直して作成してみましょう。



安心

幼児教育の考え方を取り入れましょう。

入学した子供は、新しい環境の中で初めて出会う人や場所等に戸惑うこともあり、入学当初の指導も「できない」を前提にした適応指導になりがちです。その前に、幼稚園等で親しんできた遊びや分かりやすい環境を用意して、これまでに育まれた「できる」を生かして、「幼稚園と一緒に!」、「友達ができた!」という”安心”を生み出すものにします。

成長

幼児期の経験を小学校の学習につなぎましょう。

一つの小学校には、複数の幼稚園等から経験の異なる子供たちが入学してきます。集団生活を送るために、「始めにきまりありき」の指導になりがちです。幼稚園等では、遊びや生活の中で様々な「学びの芽」を育みます。子供が必要感に基づいて自主的に取り組もうとする「学びの芽」を生かした活動や、幼児期の経験を生かして、自分たちでルールややり方を考える「学びの場」を大切にし、”成長”を促すようにします。

自立

6年間を見通し、土台となる資質・能力を育みましょう。

幼児期に育まれてきた「学びの自立」、「生活上の自立」、「精神的な自立」を基盤としながら、生活科を中心とした子供主体の学習活動を展開する中で、子供が、自分で考え、判断し、行動することを繰り返し、自立に向けて歩いていけるようにします。

スタートカリキュラム作成の実際

段階的に学校生活に適應させていくために、週ごとのテーマ及び目標を設定します。その際、「対象への気付き」から「自分自身への気付き」へと至るように設定すると、生活科のねらいにも迫ることができます。

入学当初は学年合同の活動を取り入れることで、同じ幼稚園等から来た友達がいることに安心したり、他の学級の友達との交流が生まれたりします。また、学年の先生全員を自分たちの先生として意識させることができ、安心感を高めることができます。

	4月7日(月)	4月8日(火)	4月9日(水)	4月10日(木)	4月11日(金)
ねらい	第1週 「はじめまして ○○しょうがっこう」 ○ 小学校の生活や施設を知り、安心して生活する。 ○ 学校生活に必要なきまりや約束を覚えながら、楽しく安全に過ごす。				
朝の活動	わくわくタイム(学年合同) ・朝の歌 ・健康観察 ・ふれあいゲーム ・なかまづくりゲーム ・おはなしよんで				
1	学校行事 ・健康観察 ・挨拶、通事の練習	生活・国語 ・友達と一緒に歌を 楽しんだり、自己 紹介ゲームをした りする。	生活・国語 ・友達と一緒に歌を 楽しんだり、自己 紹介ゲームをした りする。	生活・国語 ・友達と一緒に歌を 楽しんだり、自己 紹介ゲームをした りする。	生活・国語 ・友達と一緒に歌を 楽しんだり、自己 紹介ゲームをした りする。
2	学校行事 入学式	生活・国語 ・友達と一緒に歌を 楽しんだり、自己 紹介ゲームをした りする。	生活・国語 ・友達と一緒に歌を 楽しんだり、自己 紹介ゲームをした りする。	生活・国語 ・友達と一緒に歌を 楽しんだり、自己 紹介ゲームをした りする。	生活・国語 ・友達と一緒に歌を 楽しんだり、自己 紹介ゲームをした りする。

ゲームを楽しみながら、挨拶の仕方や質問の仕方、数量の感覚や体を動かす楽しさなどを身に付けていきます。また、友達や先生と関わる楽しさを感じ、学校生活への安心感や期待感を高めることができます(以下、活動例)。

- ・ 音楽に合わせて自由に動き、音楽が止まったら近くの人と挨拶・自己紹介をする。慣れてきたら、「好きな色は何ですか？」などの質問をする。
- ・ 「あ」の付く名前が集まる。
- ・ 音の数に合わせてグループを作る。
- ・ ジャンケン列車で長さを競う。
- ・ 大型絵本の読み聞かせ など

教室に、子供たちが幼児期に親しんできた遊びを自由に楽しめるコーナーを設け、友達と関わりながら遊ぶ時間を設けます。そうすることで、教師は一人一人の育ちの状況を把握しやすくなるとともに、子供たちはたづなり遊んだあと、学習に向かう気持ちへと切り替えやすくなります。また、この活動があることで、子供たちは登校後の片付けを自主的にやるようになり、教師も連絡帳を確認する時間ができるなど、ゆとりをもって子供に接することができます。

子供たちが既に身に付けていることは、進んで実践できる環境を用意し、学校生活への自信をもてるようにします。そのためには、幼稚園や保育所等の見学をしたり、職員同士の情報交換を行ったりして、子供の実態を把握しておくことが大切です。

	4月14日(月)	4月15日(火)
ねらい	第2週 「はじめまして せんせい」 ○ 友達との交流を中心とした学校生活の楽しさを知り、安心して生活する。 ○ 友達とは様々ながいことを知る。	
朝の活動	わくわくタイム ・朝の歌 ・健康観察 ・ふれあいゲーム ・なかまづくりゲーム ・おはなしよんで	わくわくタイム ・朝の歌 ・健康観察 ・ふれあいゲーム ・なかまづくりゲーム ・おはなしよんで
1	生活・国語・音楽 ・教室のわくわくコーナーで友達と遊ぶ。(積み木、折り紙、ビー玉転がしなど)	生活・国語・音楽 ・教室のわくわくコーナーで友達と遊ぶ。(積み木、折り紙、ビー玉転がしなど)
2	生活 ・教室のわくわくコーナーで友達と遊ぶ。(積み木、折り紙、ビー玉転がしなど)	生活 ・教室のわくわくコーナーで友達と遊ぶ。(積み木、折り紙、ビー玉転がしなど)
3	生活 ・教室のわくわくコーナーで友達と遊ぶ。(積み木、折り紙、ビー玉転がしなど)	生活 ・教室のわくわくコーナーで友達と遊ぶ。(積み木、折り紙、ビー玉転がしなど)

週案を考える際は、子供の一日あるいは一週間のストーリーを考えた計画にします。例えば、健康診断がある週は、前もって学校探検で保健室を見ておくなどして、子供たちの戸惑いを少なくしておきます。また、 \longleftrightarrow のように関連する内容を意図的に配列することで、指導の効果を高めることができます。

【参考文献】

- 「小学校学習指導要領解説 生活編」(平成29年7月 文部科学省)
- 「スタートカリキュラム スタートブック」(平成27年2月, 国立教育政策研究所)
- 「幼小接続期の育ち・学びと幼児教育の質に関する研究 報告書」(平成29年3月 国立教育政策研究所)
- 「千葉教育 平成29年度 菊」(平成29年 千葉県教育委員会)
- 『「資質・能力」と学びのメカニズム』(平成29年5月 奈須正裕 東洋館出版)
- 「幼児期の教育と小学校教育の接続の展望」(平成30年1月23日閲覧)